

# 令和5年版環境白書（資料編）

## 第2章 安全で安心できる生活環境の保全

### 3. 化学物質の環境リスク対策

#### (3) ダイオキシン類対策

##### ① 環境中の汚染状況を把握するための計画的な常時監視

表1 環境中のダイオキシン類常時監視結果 調査期間：令和4年6月～令和5年2月

	調査対象	区分	測定地点	単位	測定結果				
					環境基準超過地点数	最小値	最大値	平均値	環境基準値
一般環境監視	大気	—	6	pg-TEQ/m <sup>3</sup>	0	0.0061	0.016	0.0091	0.6
	大気 (松江市)	—	1	pg-TEQ/m <sup>3</sup>	0	0.0058	0.0073	0.0068	0.6
	水質	河川	1	pg-TEQ/L	0	0.063	0.063	0.063	1
		海域	1	pg-TEQ/L	0	0.059	0.059	0.059	1
	底質	河川	1	pg-TEQ/g	0	0.83	0.83	0.83	150
		海域	1	pg-TEQ/L	0	0.13	0.13	0.13	150
	地下水	—	5	pg-TEQ/L	0	0.053	0.089	0.061	1
	地下水 (松江市)	—	1	pg-TEQ/L	0	0.055	0.055	0.055	1
	土壌	—	4	pg-TEQ/g	0	0.0021	0.47	0.15	1,000
	土壌 (松江市)	—	1	pg-TEQ/g	0	0.00085	0.00085	0.00085	1,000
発生源周辺監視	大気 (松江市)	—	1	pg-TEQ/m <sup>3</sup>	0	0.012	0.031	0.019	0.6
	水質 (松江市)	—	9	pg-TEQ/L	0	0.071	0.36	0.13	1
	底質 (松江市)	—	5	pg-TEQ/g	0	1.8	41	8.64	150
	地下水 (松江市)	—	1	pg-TEQ/L	0	0.053	0.053	0.053	1
	土壌 (松江市)	—	1	pg-TEQ/g	0	0.15	0.15	0.15	1,000

※大気、水質及び底質の調査結果における最小値、最大値及び平均値は、各地点の年間平均値の最小値、最大値及び平均値

表2 馬潟工業団地周辺ダイオキシン類対策の検討経過

年月日	項 目
平成12	・馬潟工業団地内水路の底質から高濃度のダイオキシン類を検出
平成13～15	・「馬潟工業団地周辺ダイオキシン調査対策検討会議」を設置し、汚染原因の究明及び対策工法の検討、健康影響調査等を実施
平成16	・「馬潟工業団地周辺水路ダイオキシン対策委員会」を設置し、対策工法を検討し、決定。 ・「島根県環境審議会」において、公害防止事業費事業者負担法に基づく事業者負担について審議。これを基に県が「馬潟工業団地周辺ダイオキシン類対策事業に係る費用負担計画」を策定
平成17～19. 7	・底質浄化対策工事の実施（分解無害化処理、原位置固化・封込め）
平成19. 9	・工事完了後のダイオキシン類調査において、水質・底質それぞれ1箇所環境基準を超過していることを確認
平成19.10～21. 3	・水路内及びその集水域においてダイオキシン類追加調査を実施。 ・再汚染の原因究明や再発防止対策について検討
平成21. 4～22. 3	・対策工法について検討し概要を決定 ・「島根県環境審議会」において、工事費の事業者負担のあり方について審議
平成22. 4～22. 7	・工事費の事業者負担のあり方について、県が「馬潟工業団地周辺ダイオキシン類対策事業に係る費用負担計画」を策定 ・「馬潟工業団地周辺水路ダイオキシン対策委員会」において対策工法を決定
平成22. 8～22. 9	・対策工事の実施（事業者自主対策区間；浚渫除去、原位置固化・封じ込め）
平成23. 2～23. 3	・対策工事の実施（県及び松江市対策区間；浚渫除去）
平成23.11.28	・「馬潟工業団地周辺水路ダイオキシン対策委員会」において対策工事が適切に行われたと評価
平成27. 3	・すべての負担金が完済